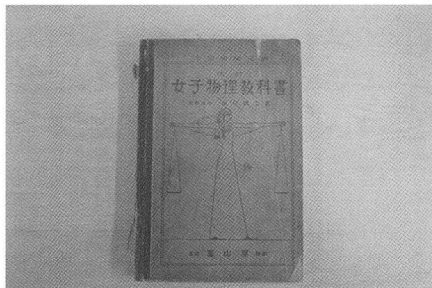




大正時代の物理教科書

写真は、大正十三年（1924年）文部省検定済み教科書で、当時の高等女学校用の物理教科書です。著者は東京帝国大学の教授も務めた中村清二博士です。

表1は教科書の内容です。現在の高等学校用物理の教科書とほぼ同じ分野を網羅しています。原子物理学の分野はありませんが、X線や放射能に関する記述はあります。ほとんどが白黒ページですが、光に関する部分では一部カラーのページもあります。また写真はほとんどなく、代わりに図が多く使用されています。



序文には「女学校用としては少しく程度が高過ぎるとの批評もあり、また一方には今日の女子教育にはこの位で適当だとの意見も聞きました。多数用いられて居ります点から考えますれば、一般には後説の方が有力であろうと思います。また私もこれ位の程度でなければならぬと信じます」とあり、教科書の内容からは当時の教育に対する考え方が伺えます。かなり高度な内容も含まれており、また日常生活に関係が深い記述も多くパラエティに富んでいます。ただ、現在の教科書に比べると数式は少なめで、かつ公式が天下り的に示されているものが多いため、どちらかというと少し読み物的な感じがします。

表1 教科書の内容

篇	タイトル	内容
第一篇	物性	序説、弾性、分子現象、液体
第二篇	熱	温度と熱量、膨張、熱の移動、状態の変化
第三篇	運動と力	力、運動、運動の定律、自然力、仕事とエネルギー、熱と仕事、周期運動と波動
第四篇	音	音波、発音体の振動
第五篇	光	光の進行及び強弱、光の反射、光の屈折、光学機器、光の分散、光の波動説
第六篇	磁気及び電気	磁気、電流、電流の化学作用、電気抵抗、電流の熱作用、電流の磁気作用、電磁感應、陰陽の電気、放電及び電波